



# 検知管自動補正Webアプリ GASTEC-Calcの利用手順

## サインイン/新規登録

メールアドレスとパスワードを登録することで、測定結果の保存や測定履歴の閲覧が可能になります。

1



右下の「サインイン」を選択します。

2



「新規登録」タブを選択します。メールアドレスとパスワードを入力してください。

3



GASTEC Soft supportから登録したメールアドレスにコードが送信されます。

4



メール本文に確認コードが記載されています。  
③の画面に戻って、コードを入力して、「確定」をタッチします。

5



登録が完了し、全ての機能が使用可能になります。

6



サインインなしでは履歴機能が使用できません。



# 検知管自動補正WebアプリGASTEC-Calcの利用手順

## ガステック検知管の吸引回数補正・環境補正

検知管の吸引回数補正や温度・湿度・大気圧補正を自動計算して補正値を簡単に得ることができます。



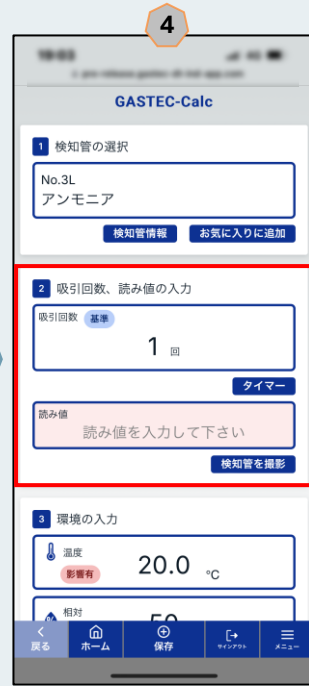
「検知管で測定」を選択します。



キーワード検索画面が開くので、該当する検索方法を選び検知管を選択してください。バーコードを読み取って簡単表示させることもできます。



検索結果が表示されるので、該当する型式を選択してください。



吸引回数を選択して、読み値を入力してください。



入力範囲内の読み値を入力して、入力完了をタッチします。



温度・湿度・大気圧を入力し、「補正計算を行う」をタッチします。



補正後の測定値が表示されます。メモを追加でき測定日時と合わせて保存できます。



保存が完了すると上記が表示されます。

# 検知管自動補正WebアプリGASTEC-Calcの利用手順

## ガステック検知管を用いたリスクアセスメント

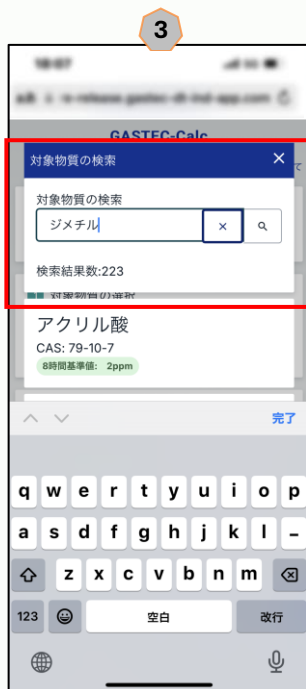
職場の安全サイトに掲載されている「検知管を用いた化学物質のリスクアセスメントガイドブック」に準じています。検知管で測定可能な物質の検索機能があるだけでなく、測定値を入力するだけで判定結果が表示されリスクの見積もりを行うことができます。



「検知管でリスクアセスメント」を選択します。



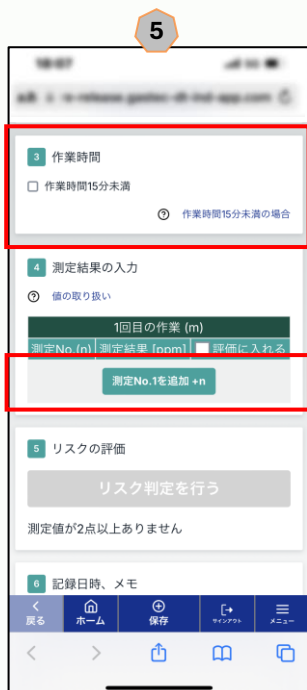
記録シート名を変更する場合は、タッチして入力してください。



対象物質入力し検索してください。検索結果に表示された物質をタッチして選択します。



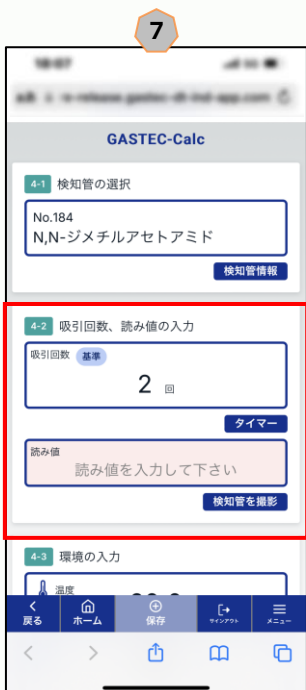
検知管用ばく露基準値が表示されます。未設定の物質は手動で入力してください。



作業時間が15分未満の場合はチェックをいれます。「測定No.1を追加」をタッチします。



検知管型式の検索画面が表示されるので、測定に使用する型式を選びます。



使用する検知管が表示されます。吸引回数と読み値を入力してください。



測定環境の温度・湿度・大気圧を入力します。「補正値計算を行う」をタッチします。

## ガステック検知管を用いたリスクアセスメント



補正後の測定値が表示されます。「測定値を表に追加」をタッチしてください。



操作5～9を繰り返して測定値(n)を追加します。不要な測定点はチェックボックスのチェックを外します。繰り返し測定の場合は、作業(m)を追加します。



全ての測定値を入力し「リスク判定を行う」をタッチします。



管理区分が表示されます。



保存をタッチするとリスクアセスメント履歴に保存されます。



「リスクアセスメント履歴」を選択します。



過去の記録を閲覧・編集することができます。

### i

- 履歴機能はユーザ登録すると利用可能になります。
- リスクアセスメント履歴は100件まで表示できます。
- 過去の測定記録は履歴取得範囲の日付を変更することで表示可能になります。
- リスク判定を行い管理区分を求めた測定記録についてはcsvファイルとしてダウンロードが可能です。
- 測定記録を削除すると、ゴミ箱に一時保管されます。完全に削除したい場合はメニューのゴミ箱から削除してください。

## ガステック検知管を用いた作業環境測定

作業環境測定基準の第十条と第十三条の規定に定められた物質は検知管方式により濃度測定が可能です。検知管の読み値を入力することで簡単に管理区分を算出することができます。

1



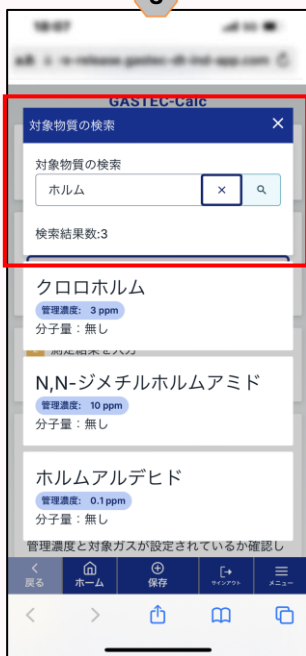
「検知管で作業環境測定」を選択します。

2



記録シート名を変更する場合は、タッチして入力してください。

3



対象物質入力し検索してください。検索結果に表示された物質をタッチして選択します。

4



対象物質と管理濃度が表示されます。各測定点の測定値を入力します。「測定No.1」をタッチしてください。

5



検知管型式の検索画面が表示されるので、測定に使用する型式を選びます。

6



使用する検知管が表示されます。吸引回数と読み値を入力してください。

7



入力範囲内の読み値を入力してください。

8



測定環境の温度・湿度・大気圧を入力します。「補正値計算を行う」をタッチします。

## ガステック検知管を用いた作業環境測定



操作5～8を繰り返して測定値を追加します。不要な測定点はチェックボックスのチェックを外します。1日目のB測定値を入力しない場合は、「判定を実施」を選んでください。その場合、操作画面12のような判定結果が表示されます。



「1日B測」の「測定No.1を追加」をタッチして1日目のB測定値を入力します。



「2日A測」と「2日B測」の測定値を順番に入力します。全ての測定値の入力が完了したら、「判定を実施」をタッチします。



判定結果が表示されます。



保存をタッチすると「作業環境履歴」に保存されます。



「作業環境履歴」を選択します。



過去の記録を閲覧・編集することができます。

### i

- 履歴機能はユーザー登録すると利用可能になります。
- 作業環境履歴は100件まで表示できます。
- 過去の測定記録は履歴取得範囲の日付を変更することで表示可能になります。
- 管理区分を求めた測定記録についてはcsvファイルとしてダウンロードが可能です。
- 測定記録を削除すると、ゴミ箱に一時保管されます。完全に削除したい場合はメニューのゴミ箱から削除してください。

## 撮影機能

検知管の変色状態の記録に便利な機能です。読取りサポートとして変色している境界部分を拡大して記録することもできます。

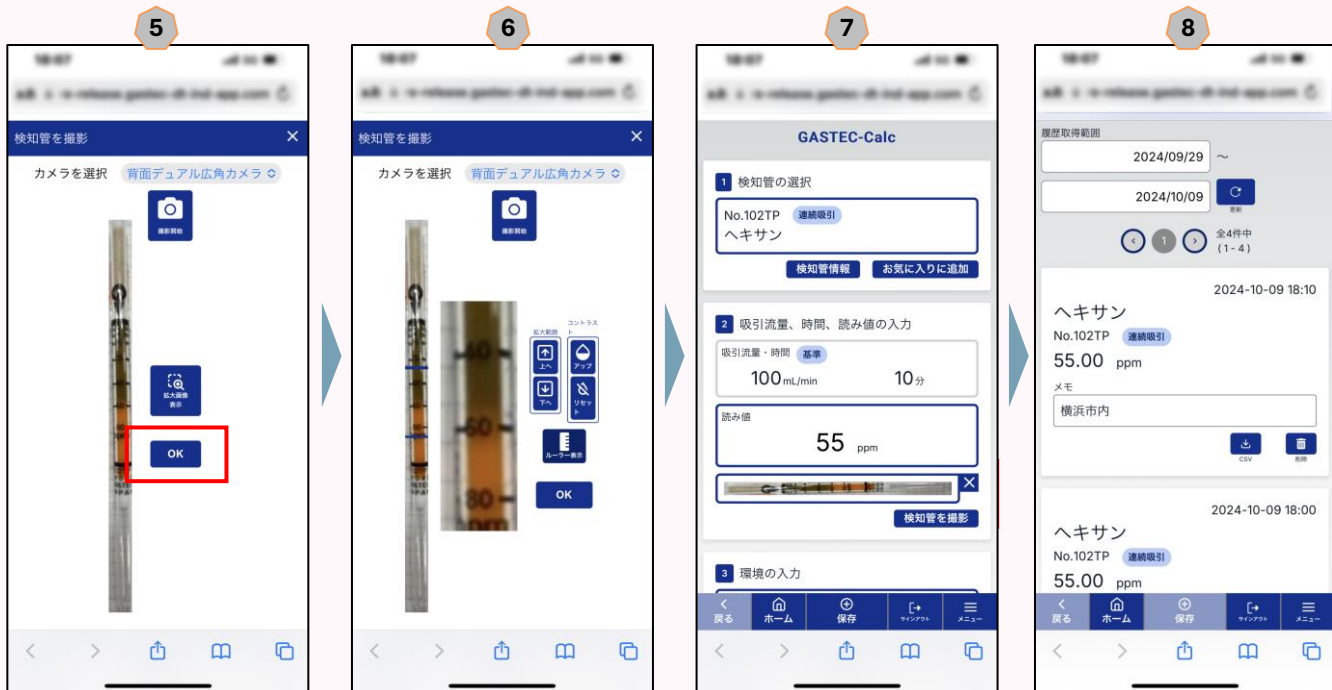


1 検知管の読み値を入力する画面またはホーム画面右上の「サインイン」を選択してサインインします。

2 サインインすると「検知管を撮影」ボタンが表示されます。「検知管を撮影」ボタンを選択します。

3 「カメラを選択」から撮影に使用するカメラを選択し、「撮影を開始」ボタンをタッチします。

4 検知管をガイドに合わせ、上下どちらかの「撮影」ボタンをタッチします。



5 撮影した写真が表示されます。この写真で問題がなければ「OK」ボタンを押します。取り直す時は「撮影開始」ボタンをタッチして4からやり直します。取り直す時は「×」ボタンをタッチします。

6 拡大画像表示をタッチすると境界部分が拡大表示されます。読取りをサポートするルーラーも表示できます。

7 写真が表示された状態で測定値を保存すると、写真と測定値が紐づけられた状態で保存されます。

8 測定履歴またはリスクアセスメントや作業環境履歴から個々の測定値に紐づいた写真を閲覧できます。